

# 栄小研究部通信

## 一人一実践:社会科【5年1組 遠藤先生】～振り返り

### 1 授業参観シートより先生たちの声 「1. 評価基準の設定について」

- 複数の資料を活用することで課題に近づいていた。
- 「拡張理解」や「統合的に活用」と、ただ「理解」や「活用」ではなく、高学年らしい一歩進んだ評価基準の設定だった。
- 黒板に集められたデータにより、多くの子どもたちが山地率が少なければ、収入が多いことに気付いていた。



- 基準がその授業に合った文言で、評価しやすい設定になっていた。
- 手立てが具体的だった。
- 短冊が効果的で、子どもたちが共通点を探していたので、多くの子どもたちが山地率と収入の関係に気付くことができていた

### 2 授業参観シートより 「2. 思考力・判断力・表現力を育むICTの活用について」

- ゲーム的要素を取り入れ、楽しみながらも日本の食料自給率について考えるきっかけが仕組まれていた。
- シミュレーションゲームを行うことにより、山地率や収入、人口などの関連から実感を伴って食料自給率について考えることができていた。
- シミュレーションゲームの効果が絶大であった。
- 子どもたちがとても意欲的だった。
- 「マクロ」すごい！！



- シミュレーションゲームや教師のスライドのしかけに子どもたちが引き込まれていく様子が印象的だった。
- ICTの活用で仮想と現実世界の比較に目を向けることができたと思う。
- 自動で計算してくれるので、どの子にも取り組みやすく、そして数値として表れるので、友達の国の状況と比較しやすいと思った。
- どの子も主体的に参加でき、自然と食料自給率を学べると思った。



### 3 授業参観シートより「3. 振り返りでアウトプットする方法の工夫について」

- ・食料自給率を高めるための方策について既習事項を生かしながら発表していたことが素晴らしかった。
- ・日本の食料自給率がドイツよりも高いとほとんどの子どもが感じていて、日本の食料自給率の低さにおどろき、次時への学習課題に結び付いてすごいと思った。
- ・子どもが「なぜだろう」と考えるような発問や教材の提示をしており、主体的に学んでいたため、振り返りの際にも、子どもたちの気づき、つぶやきが、たくさん、そして幅広く出ていたように思う。



### 4 授業参観シートより先生たちの声「4. その他」

- ・子どもたちが主体的に学べるように、様々な工夫がされていることがわかった。
- ・問かけ、ほめる、考えさせるための間（時間）、子どもの言葉をつなぎながらの授業の進行など、大変勉強になった。
- ・数値と頭の中のイメージが、子どもたちの中で、どれだけ一致していたか気になる。
- ・指導案に子どものつぶやき、反応予測が明記されており、今年度の略案形式の様式だからこそより必要になってくる視点だと思った。



- ・授業の後半における「日本の食料自給率はどのくらいだと思う？」という発問がとてもよく、子どもたちの課題意識を高めていた。
- ・「書く活動」がなかったので、ゲームで気付いた課題をもって、「日本とドイツ」の資料をもとに、一人学びで書く活動を入れたら、多くの児童が課題意識を自分ごととして、もつことができたかもしれない。
- ・単元の導入で求められる問題意識、課題意識を子どもの発言の中から生み出せた。
- ・「地形」「人口」「産業」「輸出入」など社会的な課題が出たことがよかった。

✧遠藤先生の教材開発のスキル、子どもの言葉を引き出すスキル、子どもの学習意欲を高めるスキルなど、たくさんのことを学ばせていただいた授業でした。お忙しい中、授業を公開していただき大変ありがとうございました。先生方も授業参観シート記入のご協力、ありがとうございました。